文部科学大臣賞

父から教わるお米学

広島県 東広島市立八本松中学校三年
前原　ひまり

私の父はお米についてとても詳しいです。なぜなら、父は昔からお米を栽培しており、小さい頃からお米のお世話をしてきたからです。もう一つは、父がお米関連の会社で働いているからです。いつもお米のことについて聞くとなんでも答えてくれます。また、私は学校でお米に関する知識を得た時に必ず父にその話をします。しかし、父はすでにそのことを知っており、さらにもっと詳しい情報を私に教えてくれます。

また、今もお米の栽培を続けており、米作りには人手がいるので、私も小さい頃から父の手伝いをしています。田植えや稲刈り、草刈り、肥料まきの時に手伝っています。そんな私の家ではお米に関する話題が尽きません。今回の作文では我が家のエピソードを紹介します。

私は昔から父が携帯電話で撮った家族の写真を見ることが好きで、その写真を見返しながら父とよく話をしています。ですが最近写真の内容が変わってきたのです。父は仕事で籾摺り機の組み立てや、改良を行っています。そのため仕事の関係で機械の様子や実験結果の写真が増えすぎて、家族の写真が少なくなったのです。父の撮った写真は機械についたカビの様子や、お米についていた虫の卵が羽化しているものなどが多いです。機械のパイプにお米がぎゅうぎゅうに詰まっている様子や、カビが舞って雪みたいに見える様子、透明な袋に入っているお米で対照実験をしたときに片方の袋にだけコクゾウムシがいる様子などの写真があり、知らなかったことがたくさんありました。また、父は帰ってきたときによく重い荷物を持って腕が痛いとか、でかいパイプに頭をぶつけたなどと言っています。私は今まで父がどんな仕事をしているのか全く想像できなかったけれど、写真を見て疲れて帰ってくる理由が少しわかりました。

こんなこともありました。先日、家の炊飯器が壊れたので父が一週間ほど悩んで黒い炊飯器を買ってきました。ベストなものを選ぶのが大変だったと、決めた過程を話してくれました。父は炊飯器へのこだわりがとても強いのです。その炊飯器で初めてご飯を炊いた時に感想を聞いてきましたが、私は正直にあまり変わらないと答えました。相変わらずおいしいという意味です。しかし、父はそうか？と不満そうでした。

私は授業で学んだことや、初めて知ったことは家に帰って父に説明します。人に説明できるようになって学習理解を深めるためです。先日社会科の授業で地球温暖化について学習した時、新潟県よりも北海道の方が暑さの影響でお米の生産量が増えていることを知りました。私は小学生の時に新潟県が一番お米の生産が多いと習った記憶があったので父に話すと、当然のように父はそのことを知っており、さらに「水田に水をためすぎるとメタンガスが発生して、地球に悪いから調節しながら稲を育てていかないといけない。」と教えてもらいました。水をためすぎてもいけないだなんて今まで聞いたことがなかったので信じられなくて後で調べてみると本当でした。これからも父にお米についての知識で勝つことはできなさそうです。

改めて考えてみると父は平日に会社で仕事をし、休日の時間を使ってお米のお世話をし、さらに私が幼い頃は毎週末遊びに付き合ってくれていました。父の休みはほとんどなかったのだとわかりました。お米を育てることは父の作業内容からも大変だと知っているので、これからも父の作業を手伝っていきたいと思います。貴重な体験と知識を与えてくれてありがたいなと感じています。お米が口に入るまでいろいろな人の苦労と工夫があることを父から学びました。これからも父からたくさんの知識を吸収して学習や生活に役立てていきたいです。